



## **29 番地 (Number 29) のご案内**

29 番地 (Number 29) は、ダブリンのジョージア王朝風住宅博物館です。見学の所要時間は約 1 時間です。ご来場の皆様には、ベースメントから屋根裏までガイドつきの見学をしていただきます。各部屋には、1790～1820 年に使用されていた当時の調度品が備えられています。見学の初めには、当家の歴史的な背景を説明するビデオをご覧ください。当家の最初の居住者であり、1794 年 11 月に当家に移ってきたオリビア・ビーティー夫人に関する話をお聞きください。

### **ベースメント (地階)**

当家のベースメントには、ワイン貯蔵室、食器洗い場、キッチン、食料棚、家政婦の部屋があります。使用人は、ベースメントのキッチンにある出入り口を使用しました。家正面の柵にある門扉から、このドアに行くことができました。ベースメントでは、食品の下準備、調理、洗濯、清掃すべてが行なわれたため、家の中で一番忙しい場所でした。

食器洗い場 (scullery) は、寒く湿ったところで、野菜を洗い、鍋やフライパンをごしごし洗ったところでした。ベルファスト風の石製流しで食品の下準備がされたあとキッチンに運ばれ、家政婦が調理しました。使用人は、キッチンで毎日食事を取り、食器棚の背部に展示されているピュータ製の皿を使用しました。最初のころは、キッチンにはおそらく真ん中に焚き火をくべるレンジがあったと思われますが、18 世紀後半にはストーブレンジが利用できるようになりました。

家政婦は、使用人の中で最も重要なメンバーの一人でした。家政婦は家族と同居し、食料棚 (pantry) の隣の質素な部屋に住んでいました。一般的に、女主人は上階の部屋でいらなくなった家具をこの部屋に備えました。家政婦は、使用人に指示をするだけでなく、調理、選択、アイロンがけを監視し、家計の管理も担当しました。

### **1 階**

正面の入り口は、家族と親戚、友人が使用しました。玄関 (hall) ドアのすぐ内側にある真鍮製の横棒は、ダブリン特有のものとされています。これは、馬車の毛布をかけ、ぬれた衣類がペンキを塗った壁に触れるのを防止するものだったと思われます。玄関ホールはすばらしいデザインですが、当家の初期の住居者は、警備を非常に重視したため (ドアの鍵とチェーンからそれが伺われます)、彫刻と大きな絵画だけを飾っていました。

ディナーは、18 世紀には非常に楽しみにされていたものであり、一般的なディナーパーティーは仰々しいイベントであり、3 コースにわたって最高で 30 種類の料理が出されました。銀製食器は、ダイニングルーム (Dining Room) から持ち出されることはなく、慎重な監視の下で洗って保管されました。ディナーのあとは、一般的に男性はテーブルに残ってポートワインと葉巻を楽しみ、女性は 2 階の応接間 (Drawing Room) に行きました。

## 2 階

正面の応接間 (Front Drawing Room) は、お客様の接待専用であり、最高の芸術品で装飾されていました。大きなシャンデリアは、アイルランドのカットガラスの好例であり、1830 年のものです。この部屋は公の接待を目的にしていますが、客間 (引き下がって休憩する部屋、Back Drawing) は家族のための部屋であり、親密なイベントの中心となりました。このような集まりでは、音楽やトランプが接待の中心となり、紅茶は高価でしたが、非常に人気のある飲み物でした。暖炉の隣にある展示品は、「ポールスクリーン」と呼ばれ、女主人の肌を火の熱から守るものでした。

## 3 階

私室 (Boudoir) は、女主人が「女主人のメイド」と呼ばれる召使の手を借りて着替える場所でした。19 世紀の衣類の見本が、部屋中に展示され、マネキンに着せられています。着替えが終わると、ペンブローケットテーブルに朝食が出され、午前中は手紙の返事を書いたり、親しい友人を接待しました。この部屋で特に興味深いのは、1825 ~ 1830 年の花柄の壁紙 (現物) です。

主寝室 (Master Bedroom) の主な調度品は、19 世紀の 4 本支柱のベッドであり、冷たい隙間風が入らないようカーテンがかけられています。ベッドが短く見えますが、これは大きな枕とボルスターのせいです。枕を重ねることにより、身体を起こして眠ることができました。当時の練習用馬が展示されていますが、バネを使い、乗馬を模倣するよう設計されていました。寝室には、続きに更衣室 (Dressing Room) があり、女主人の美しい靴 (現物) が展示されています。

#### **4 階**

最上階は、住み込みの女性家庭教師と子供たち専用であり、特に活気に満ちた場所でした。家庭教師が主に子供たちの世話をし、英語、歴史、地理、音楽、ヨーロッパの言語、おそらくはフランス語などを教えました。男の子も女の子も刺繍を習いました。細部にまで気を配らなければならないこの練習は、子供たちに自制心を教えると信じられていたからです。この刺繍の様々な例が、家庭教室の部屋 (Governess's Room) の中と子供の遊び部屋 (Children's Playroom) の外に展示されています。

子供たちは、1 日ほとんどの時間を子供部屋 (Nursery) で過ごすため、この子供の寝室は広く、乾燥していて通気の良いものでした。毎日の日課として、子供たちは朝 7 時に起こされ、暖炉の近くで洗顔し、着替えをして朝食につきました。朝食後、家庭教師がレッスンをを行い、天気の良い場合は新鮮な空気を吸うために外出し、マリオン広場に行って体操をしました。当時のオリジナルのレッスンは、「初歩ボックス」にいれられており、隣接の遊び部屋に豪華な人形の家 2 個と共に展示されています。

---

29 番地 (Number 29) は、世界中からの訪問者を歓迎しています。当館の気さくで知識豊富なスタッフが、皆様を暖かくお迎えし、思い出に残る訪問となるよう努力いたします。